

小澤 實選

靴下を嗅いで梅雨入を確信す

長野県 村田 実

【評】自分の足に履いていた靴下の匂いを嗅いでみて、梅雨に入ったことを確信したというのだ。梅雨特有の匂いになっているのである。それほどどの悪臭ではない。

わが裸身老いたり皮膚のたるみたり

匠瑳市 椎名 貴寿

【評】鏡にうつした自分の裸身がいつか老いている、よく見ると皮膚もたるんできている。自分の老いそのものから目を背けないのだ。

海と空光り沖繩慰霊の日

土浦市 今泉 準一

【評】六月二十三日は、沖繩戦における組織的戦闘の終わった日、二十万以上の死者を悼む日である。「海と空光り」に鎮魂の思いが籠る。

九条に守られてゐる端居かな

八王子市 徳永 松雄

指差しし夏霧の尾根行くといふ

大阪市 今井 文雄

伸びきつて力失せたる雲の峰

東京都 望月 清彦

マンシヨンの最上階に目高飼ふ

東大阪市 渡辺美智子

ガレットの新じゃが焦がすオリブ油

神戸市 吉野 勝子

箱庭の猫魚屋に追はれをり

名古屋 市 可知 豊親

マンドリン少し弾く朔太郎の忌

伊賀市 福沢 義男

津川絵理子 選

梅干と愚直の人は苦手なり

栃木県 あらゐひとし

【評】愚直は本来否定的な言葉だが、なぜか肯定的に使われることもある。作者は愚直の人もそれを肯定する人も苦手なのだろう。梅干と並べたところ、皮肉が効いている。

揺れながら萍池を覆ひけり

相模原市 はやし 央

【評】萍をよく観察している。「揺れながら」の発見が良い。萍の生命力とともに、それに覆われた池全体が命を持っているようだ。

シーツ干す明けつひろげな夏空へ

新発田市 加藤じゃすみん

【評】夏空へシーツを干すだけなら当たり前だが、「明けつひろげ」の形容が面白い。いかにも力ラツと晴れた夏空らしく、気持ちが良い。

泛び来る巡邏赤灯海霧ふかし

札幌市 村上 紀夫

蟪蛄生る竿を渡つてちりぢりに

豊田市 藤本 恭子

梅雨夕焼夜勤ナースの靴の音

総社市 風早 貞夫

蝮草薩摩に千の熊襲穴

霧島市 秋野 三歩

梅雨寒の朝市に湧く中国語

宇都宮市 津布久 勇

今は無き星も交じらん星涼し

神奈川県 中島やさか

継がれ来し平和噛みしめ茄子を植う

奈良県 松井 秀仁

枝しおり折

園田秋桜花句集「桜隠し」海外経験豊かな著者の第1句集。ハマチュピチュに雪降る終末いま来す

(コールサク社、1980円)

◆第81回現代俳句協会賞 鈴木牛後句集「鄙の色」(書肆アルス)、対馬康子句集「百人」(ふらんす堂)

◆第62回短歌研究賞 中根誠「墓碑銘」(28首)

◆第46回現代俳句評論賞 山根もなか「俳句は第一芸術である―知覚・形式・運動の条件」、同賞佳作 櫻氏華氏「安井浩司論―『謎と変容』の世界について」、五島高資奨励賞

佐野典比古「俳句はどのように世界を成立させるか―情と言葉の生成構造」、西村我尼吾奨励賞 後藤よしみ「風景の発見と日本的なるもの―高柳重信の句集をめぐって」、松王かをり奨励賞 関灯之介「小澤實『福島巡礼』を読む―あるいは身体によって俳句を読むための試論」



題字デザイン・イラスト 福田美蘭